

下関市立大学広報



海峡の英知。未来へそして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2012年7月1日 第67号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町 2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp>

下関市立大学50周年記念事業



学部長 櫻木晋一（広報委員長）

下関市立大学は、1962（昭和37）年4月に商業短期大学から四年制大学に移行して、2012（平成24）年3月でちょうど50年が経ち、これまでに16,000名余の卒業生を輩出している。この50年という節目を祝い、来賓や卒業生、学生を含む約200名が参加して、5月26日（土）12時45分からB-303教室で記念式典が開催された。

まず主催者を代表して、荻野喜弘学長と柴田勝利同窓会長より挨拶があり、荻野学長は「教職員が力を合わせ、本学発展のために全力を尽くす。」と決意を述べた。次に来賓を代表して、中尾友昭下関市長と関谷博下関市議会議長、木下悦二第六代学長、劉志勇青島市人民政府外事弁公室アジア処長の4人から祝辞が披露された。中尾市長は「市大が地域に根差した存在であり続けるよう、最大限の支援をする。」と、また、関谷議長は「市大が今後も優秀な人材を育成していくことを大いに期待している。」と述べられた。そして、木下元学長からは「学術センターは、下関の財界や市民の支援があつて建設することができた。入試制度改革の結果、市大は全国から学生が集まる大学となった。」とのご紹介を、劉氏からは「下関は忘れられない土地だ。青島には市大で学んだ者の同窓会があり、両国の友好のために活躍している。」とのご報告をいただいた。続いて、第一期生からの記念樹の贈呈式と同窓会から国際交流基金への贈呈式が行われ、第一期生を代表して榎谷学氏から記念樹「しだれ桜」の目録が、柴田同窓会長から50万円の目録が本間俊男理事長に渡され、本間理事長は「大切に有効活用していく。」と謝辞を述べた。

記念式典終了後、休憩をはさんで13時45分からは、大阪府立大学奥野武俊学長による「これからの大学と公立大学の役割」と題した講演があり、ヨーロッパで大学が成立した歴史的経緯や日本の大学法人化、大学改革について解説のあと、公立大学は地方産業の活性化のために重要である旨の内容であった。また、本学は勤労学生達が作った大学であることを知り、大学の起源と類似した大学で

あることに驚かれていた。講演終了後、この日の結びとして、卒業生が選んだ思い出に残る先生方3名による講義が行われた。神戸在住のジョン・ルーク・オマリー先生、東京からは森映雄先生、今春定年を迎えられた吉津直樹先生による、懐かしい市大史の一コマや記憶に残る卒業生達の逸話を語られた講義に対し、70名を越す卒業生達が聞き入っていた。

翌5月27日（日）は、卒業生と現役学生の交流会が開催された。午前9時から現役の学生諸君がグラウンドや体育館、厚生会館でサークル活動を行い、一部OBとの交流戦も実施された。12時からは大学祭実行委員会による市大名物の「ふぐ鍋」が無料で振舞われた。14時からは本館I-206教室で、永野良明氏（1期）、藤田滋紀氏（5期）、富成信太郎氏（8期）、佐藤倫弘氏（24期）の卒業生4名が登場し、市大の思い出を語るパネルディスカッションが行われた。4名は、それぞれ自分の学生時代の苦労した思い出を語り、施設も充実し立派になっていく市大の現状には満足な様子で、集まった現役学生たちに対して、大学生活や就職活動におけるアドバイスを熱く語った。最後に、コーディネーターの私が結びの挨拶をし、全ての行事が無事終了した。



記念講演
大阪府立大学 理事長・学長
奥野武俊先生



思い出の講義
ジョン・ルーク・オマリー先生



思い出の講義
森 映雄先生



思い出の講義
吉津直樹先生



下関市立大学50周年記念事業
思い出のパネルディスカッション

平成24年度 第51回入学式

天候に恵まれ、満開の桜が咲き誇る絶好の式典日和のなか、4月6日(金)に第51回入学式が挙行されました。

式は学生歌「青潮ゆたかに」の斉唱後、まず荻野喜弘学長から、下関の地でグローバル社会に相応しい「英知」と「学問の方法」を身につけて欲しい旨の告辞がありました。続いて、中尾友昭下関市長、関谷博下関市議会議長、吉川英俊後援会長、柴田勝利同窓会長、弘田大祐学友会長から祝辞が述べられました。

これに対して、学部新入学生を代表して経済学科津守美優さんが、学部留学生は経済学科レティトゥイリンさんが、大学院生は国際ビジネスコミュニケーション専攻の曲正さんが、それぞれ誓いの言葉を述べました。リンさんは、本学初のベトナムからの留学生で、民族衣装であるアオザイをまとった姿が印象的でした。今年の新入学生は、学部留学生11名を含む学部生464名、3年次編入生20名、交換留学生9名、科目等履修生5名、大学院生4名の合計502名です。

最後は、恒例となっている吹奏楽部による「ディスコ・キッド」の演奏があり、式は滞りなく終了しました。



学部新入留学生代表のレティトゥイリンさん

新任教員挨拶

准教授 西田光一



本年度より赴任しました西田です。基礎・教養教育で英語を担当しています。下関は、その歴史上の役割の大きさもさることながら、私的にもゆかりの深い土地で、本学に勤務する機会に恵まれ、充実した毎日を送っています。特に旧秋田商会ビルや山口銀行旧本店をはじめとする近代建築を身近に置く環境は、とても贅沢に感じています。

専門は言語学で、特に英語の文法と語用論の関係を調べています。英語の授業では、英語を実務で使えるようにすることを重視しています。ここでの実務とは、海外旅行で困らないとか、洋画を字幕なしに理解できるといった教養ではなく、社会に出た後で役に立つという意味であり、これが一定の基準でできれば、仕事で認められるというレベ

ルの英語の使い方を身に付ける授業としたいです。研究では、どの分野の人とも問題意識が共有できるように、出発点を常に身近な日常言語の使い方に置いています。語用論を基礎に、経済や対人関係を視野に研究を進めていく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

准教授 外柵保大介



本年4月に着任いたしました、外柵保大介と申します。本学では主に経済地理学や地域論などを担当します。

経済地理学は、経済現象を地域、場所、空間という概念を通して説明し、解明しようとする学問です。経済地理学では、文献を精読し、地域に関するデータを解析するとともに、フィールドワークを重視しています。

ところで、地元長州藩の吉田松陰の教えの一つとして、「飛耳長目」という言葉があります。これは、あちこちにに向いて見聞を広め、自分の目で見て世の中のことをよく知ろうという意味ですが、この「飛耳長目」は、フィールドワークの意義を示してくれる言葉であるともいえるでしょう。

先日、吉田松陰所縁の萩・松下村塾を訪れる機会がありました。明治維新を駆け抜けた英傑らの原点となった建物にしては小さく感じましたが、その密度の濃さこそが彼らの強力な結束力を生んだのかもしれない。本学も、大きな規模の大学ではあるとはいえませんが、小規模ゆえの結束力を活かして優れた人材を輩出していきたいと思います。

特任教員 呉香善



この4月より朝鮮語を担当することになりました呉香善です。出身は韓国ソウルですが、下関在住歴は長い。「住めば都」のことわざのように、山や海に囲まれた下関は、お魚は美味しいし、物価も安く、雪・台風・地震などの自然災害が本当に少ない住みやすい町だと思います。豊かな自然で、四季と共に育む心は次第に穏やかになり、今ではごみごみしたソウルより下関の方が落ち着くようになりました。

最近韓流ブームのお陰で韓国や韓国文化に興味を持った人、韓国語を学んだりしている人が増えています。私の研究分野は、日本人のための朝鮮語教育と韓国語教授法ですので、せっかくのこのブームをブームで終わらせてはいけないという強い使命感を持っています。研究活動によって得られた成果を、言語教育の現場にどのように還元できるか、より効果的な日本人のための韓国語教授法が模索できればと思います。

古くから大陸への窓口として発展してきた下関で、皆様と一緒に異文化理解を深め、国際化時代を生き延びる者としての教養を高めていきたいと思っています。

特任教員 趙 娜



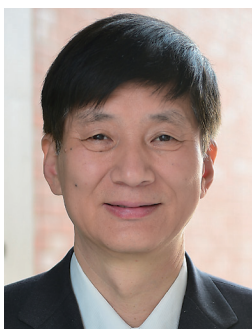
皆様こんにちは。

私は青島大学から来ました中国語教員の趙娜と申します。2012年4月から2013年3月まで、下関市立大学に一年間在籍致します。

青島大学と下関市立大学は姉妹校になって以来、青島大学は毎年中国語教員を一名下関市立大学に派遣してきました。本年度は私がこの機会をいただくことになり、大変光栄に思っております。下関市は自然が豊かで、風景が美しいところです。また下関の方々はとても温かく、親切です。大学の教職員の皆様からは、仕事の面だけではなく、生活面においても丁寧なご支援、ご助力をいただき、とても感謝しております。下関市立大学の学生はとても勤勉で、積極的に中国語を学ぶ姿勢に私自身励まされています。

私は対外中国語教育に従事して10年になりますが、外国語教育法や第二言語習得理論についての様々な問題に関心があります。中国では、世界各国から来た留学生に中国語を教えております。ただ現在私の授業を受講しているのは、すべて日本人学習者です。これは私にとっては、良い機会であり、また一つの課題であると考えています。日本人学習者に適合する教育方法を少しでも早く探求し、教育の過程において生ずるあらゆる問題点を解決する必要性を感じております。今後は、私自身日本の大学での授業の経験を重ね、また教育と研究においてさらに一段高いレベルに達することができるよう努力していく所存であります。

特任教員 楊 鑄



私は中国北京大学中国言語文学学部の教授で、本年4月より日本の下関市立大学で一年間教鞭を執ることになりました。私の専門の研究領域は中国文学理論で、その中でも主に中国古代文学理論を研究しております。この他、私は古典の版本に対する研究にも関心があり、日本に所蔵されている漢籍に関する研究書を執筆したこともあります。私はこれまで何回か、日本、韓国、シンガポールなどの大学に在籍したことがあります、外国の学生に中国語を教えた経験があります。

この度は中国語の特任教員として下関市立大学に参りましたが、これは私自身にとって非常に意義があり、重要な職務であると考えております。学生達が楽しく中国語を学習し、中国語の「聴く」「話す」「書く」「読む」といった総合的な語学能力を向上させられるように、精一杯教育に従事するつもりです。また授業において、私は学生達が中国語の標準音と中国語の慣用表現をマスターすることを重視したいと思っております。

中国語を学習している学生達の姿を見ると、日中間の文化や社会における友好が末長く続く光景が思い浮かべられます。私はこのような友好関係を切に望んでおります。

第47回卒業式を挙行

本年3月25日(日)、本学体育館において、第47回卒業式が執り行われ、学生歌「青潮ゆたかに」斉唱の後、経済学科228名、国際商学科262名、大学院経済学研究科6名の計496名が、学位記を授与されました。

学長告辞では、リーマン・ショックによる世界同時不況が始まった年に入学し今回晴れて卒業する学生たちに、「運鈍根」と「絆」の二つの言葉が荻野学長からはなむけとして贈られました。また卒業生アンケートの結果を紹介しながら、本学の先輩卒業生たちは社会の各方面でやりがいを感じつつ活躍している、皆さんもこれに続くようにとの激励がありました。たびだちのことは、経済学部総代の久保智さん、学部留学生総代の申成鎬さん、大学院総代の劉曉琳さんが務めそれぞれの力強い決意と感謝の気持ちを述べました。

本年の学生論文集「赤間」掲載論文のうち、優秀赤間賞に伊藤朱里さんほか3名の共同執筆者(テーマは「地方銀行の現状と課題」)が選ばれ学長より同賞が授与されました。少子高齢化と不況の折の地方銀行のビジネスモデル構築を考察した時宜を得た力作と評価された作品であり、他の赤馬賞受賞作も含め、本学学生の勉学分野の意欲とレベルの高さを示したものであるでしょう。



国際商学科 吉津美香さん(卒業証書、学位記授与)

四年制移行50周年を節目に キャンパスを再整備しました

昨年10月に本館Ⅰ棟・本館Ⅱ棟が完成し、旧校舎の跡地は、キャンパスプラザという広々とした共有スペースに生まれ変わりました。この開放的な空間は、学生による催しをはじめ、学内、学外を問わない様々な交流の場として、これから有効に利用されていきます。また、下関らしく、市の花木である桜・ツツジに囲まれるよう計画されています。

ここ数年で大学の風景は随分と変わってきております。市民の皆様におかれましては、お近くにお越しの際は、新しくなったキャンパスをぜひともご覧ください。



退任挨拶

金子 肇

赴任したばかりの4月の頭、正門の前で学ラン姿の学生から、野太い声で「応援団に入りませんか」と誘われたのを覚えています。赴任して最初の定期試験で監督に行った際には、ある先生から「こら、さっさと席につけ」と怒鳴られました。どちらも学生と間違われたわけです。なにしろ当時はジーパンをはいて授業をしていたので、間違えられるのも仕方のないのですが、それにしても赴任した頃は若かったなあをつくづく懐かしくなります。



22年前、本学に講師として採用された当初、授業するのは初めてで不安でしたし、研究者としても駆け出しの新人でした。先輩の諸先生方は、頼りない奴が来たものだと思われたに違いありません。けれども、本学で過ごした22年間で、専門の中国史を系統立てて授業する力を養うことができ、また研究の面では海外研修1回と国内研修2回の機会を与えていただき、テーマの幅を拡げるとともに博士号を取得することができました。その上、学内行政の面でもみっちり鍛えていただきました。

広島大学転任後も、本学での経験を生かし引き続き精進していくつもりです。市大と皆様のますますのご発展をお祈りします。長い間、お世話になりました。

伊藤恵美子

2005年4月に下関市立大学に赴任して、7年の歳月が過ぎました。赴任2年後に大学が法人化する大きな時代のうねりのなか、来し方を振り返ると、教育と研究の両面において毎年着実な成果を出すことができました。



研究面では、2008～2010年度に引き続いて2011～2013年度も科学研究費補助金(基盤研究(C))を獲得し、研究の礎を築くことができました。補助金申請の研究計画は、2007年度下関市立大学特定奨励研究費による研究成果を踏まえており、特定奨励研究費の所期の目的にも適うことになりました。

教育面では、国際交流センターに留学生専門教員が未配置のため、日本語教員として留学生(学部生・短期留学生)教育全般に亘って制度の見直しを図りました。第一は、2006年度から実施した日本語の必修科目化です。学部留学生が陥りがちな安易な履修計画を改めさせ、大学生として求められる日本語力を修得する機会を保障することができるようになりました。第二は、2007年度から導入した入試制度改革とチューター制度の弾力的運用です。前者は、経済学部における選抜試験の意義を再考して、受験者を拾うための問題から受験者の論理的思考が測れる問題作成へと方向転換しました。後者は、名古屋大学で先進的に導入された新チューター制度を参考に、留学生がその時々に必要なとする支援に柔軟に対応できるようにしました。第三は、

2008年度から行っている短期留学生科目の習熟度別クラス編成です。初級から超上級までの個々の学生の日本語力に合った授業展開が可能になり、質の高い教育を施していることを対外的にも示すことができるようになりました。第四は、2009年度に新設された特待生制度です。授業料の一律半額免除から成績の良い学生は全額免除となり、学部留学生のインセンティブを高めることに繋がっています。第五は、2011年度に実施に至った学部生の日本語クラスの習熟度別編成です。

一連の留学生に対する教育改革の結果、入学志願者は2008年度入試31名→65名→64名→92名と増加傾向を辿り、2012年度入試では104名に達しました。東日本大震災により日本全体では留学生が減少しているにもかかわらず(2012年1月24日朝日新聞朝刊)、志願者が増加したのは外国人受験生・日本語学校の先生方から頂いた留学生教育に対する評価の表れでしょう。

最後に、これら改革の実現にあたり、惜しみないご協力をくださった先生方に感謝申し上げます。

特任教員 董 洪利

2011年4月1日から、私は北京大学中国言語文学部の委任により、下関市立大学の特任教員の職を務めることとなり、中国語の授業を一年間担当することになりました。全く初めての見知らぬ環境で、また私は日本語ができず、日本人と交流ができませんので、当初はいささか不安を覚えることが多々ありました。しかしながら、私のこのような不安は来日以来、徐々になくなっていきました。下関市立大学の役職者の方々、教職員の皆様、学生諸君は私に対してとても親切で、特に生活面と大学の教育面において、至れり尽くせりのご配慮、ご助力をいただきました。遠く離れた異国に居ながら、全く不便さを感じることはありませんでした。無事に担当したすべての授業を終了することができ、またこの期間、多くの日本人の友達ことができました。1年の任期で帰国することになりましたが、この機会をお借りし、下関市立大学の関係者の皆様方に、心から感謝の意を表したいと思います。今後、皆様方が北京大学を訪問されることを歓迎いたします。



特任教員 張 科蕾

去年の4月に新任のあいさつ文を書いたのはまだ昨日のこのようですが、一年間、あっという間に終わりました。この一年間、学長先生を始め、市大の皆様のご親切をいただき、また、やりがいのある仕事と可愛い学生さんたちに恵まれて、大変充実した幸せな毎日を送ることができました。



学生たちが中国語が少しずつ上手になってきたのを見た時の嬉しさと達成感、スピーチコンテストで精いっぱい頑張っている選手たちの姿を見た時の

感動は今でも覚えています。中国語がこんなにすばらしい言葉だ、自分の母国語を教えるというのはこんなに素敵なことだとたびたび実感してきました。そして、自分も学生たちに育てられ、いろいろと成長してきたような気がします。

この一年間、素敵な出会いがたくさんあって、大切な思い出をいっぱい作りました。日本に来る前にいろいろと心配もありましたが、今この一年間を振り返ってみたら、来てよかったと言いたいです。そして、青島に帰って、こちらで見たこと、感じたこと、学んだことを教育の現場にフルに生かしたいと思っております。ありがとうございました。

第3回ふく資料室フグシンポジウムを開催

去る3月3日(土)、第3回下関市立大学ふく資料室フグシンポジウムが本学本館Ⅱ棟5階大会議室(80名収容可)で開催されました。テーマは「トラフグに関するイメージ分析と地域振興の評価」、市場関係者のみならず下関市地域活性化に関心を寄せる市民が約50名とマスコミ関係者が参加し、本学教職員学生とともにシンポジウムの行方を見守りました。

前半は3名の講師による研究報告であり、本学からは、フグ消費の消費者心理の全国アンケート調査分析(本学横山博司教授:心理学)、安乗フグによる地域振興と下関フグブランドについての調査分析(本学濱田英嗣教授:水産経済学)の2件、もう1件は招待講師の三重県水産試験場資源開発管理課の津本欣吾氏による、三重県におけるトラフグ漁業の実態報告でした。

これに続いて行われたシンポジウムでは、本学杉浦勝章准教授の司会により4名のパネラーが、フグ産業について多面的に議論しました。この結果、フグ産業の2極化の実態が消費と生産・流通について明らかにされ、フグブランドの行方、下関フグの活性化方策が熱心に話し合われました。今回のシンポジウムには、水産経済学、水産資源管理の専門家のほか、産業政策論、地域計画論、消費心理学など多様な専門家がパネラーとして集まりました。とくに大衆戦略としては、下関市内フグ横丁の創設(濱田教授)やフグメニュー百種揃えの意気込み(佐藤准教授)を求めるなど具体的な提言も出てマスコミも含め聴衆の関心を惹きました。



国際共同研究シンポジウム in 釜山の報告

准教授 山川俊和

去る3月30日(金)、韓国・釜山の東義大学校において、東義大学校と本学の共催による「国際共同研究シンポジウム in 釜山」が「グリーン成長と共生」をテーマに開催されました。本学からは、荻野喜弘学長、菅正史准教授、中川圭輔専任講師、山川の4名が参加しました。内容は二部構成であり、第一部では、「21世紀グリーン成長のための釜山-下関の協力戦略と実践課題」(パク・ギナム教授)、「グリーン成長に向けた日本の都市政策」(菅准教授)が報告され、グリーン成長の定義、京都メカニズムを通じた下関と釜山の連携の可能性などが議論されました。

第二部では、「地域経済観点から新再生エネルギー供給活性化法案」(イム・ドンスン教授)、「東アジアの経済連携と自然資源セキュリティ」(山川)が報告され、自然資源をめぐる日韓の政策比較や、東アジアでの資源管理連携の可能性などが議論されました。質疑応答では、学生も積極的に発言し、時間まで報告者とフロアの活発なやりとりが続きました。両校の交流の一層の充実を予感させる有益なシンポジウムとなりました。



特待生の表彰式が行われました

5月8日(火)、平成24年度特待生の表彰式を実施しました。本年度成績優秀者に認定される特待生として選出されたのは、2年生5名、3、4年生の各学年4名ずつと、留学生2名の計15名でした。荻野喜弘学長より「これからも本学の模範生として頑張ってください。」と激励の言葉がありました。特待生には特典として、授業料の半額免除や奨学金などが与えられました。



2012年度入学者選抜実施状況

学科	入試		定員	志願者	受験者	合格者	実質倍率	追加合格者	入学者
経済学科	推薦入学	全国	27	72	71	27	2.6	—	27
		地域	A B	29	40	40	30	1.3	—
	一般選抜	前期	52	311	296	77	3.8	—	60
		中期	83	1,323	669	289	2.3	6	82
	帰国子女	2	0	0	0	—	—	0	
	社会人	2	0	0	0	—	—	0	
	中国引揚	若干名	0	0	0	—	—	0	
	留学生	若干名	21	19	6	3.2	—	5	
	編入学	10	39	37	12	3.1	—	9	
	国際商学科	推薦入学	全国	27	89	88	27	3.3	—
地域			A B	29	19	19	18	1.1	—
一般選抜		前期	52	316	303	91	3.3	—	62
		中期	83	1,443	673	273	2.5	2	91
帰国子女		2	2	2	0	—	—	0	
社会人		2	1	1	0	—	—	0	
中国引揚		若干名	2	2	2	1.0	—	2	
留学生		若干名	66	65	11	5.9	—	4	
編入学		10	36	35	11	3.2	—	11	
公共マネジメント学科		推薦入学	全国	7	19	19	7	2.7	—
	地域		B	8	8	8	5	1.6	—
	一般選抜	前期	16	43	38	25	1.5	—	17
		中期	27	233	96	65	1.5	—	25
	帰国子女	1	0	0	0	—	—	0	
	社会人	1	0	0	0	—	—	0	
	中国引揚	若干名	0	0	0	—	—	0	
	留学生	若干名	17	17	4	4.3	—	2	

2012年度合格者出身校

北海道	小樽桜陽	広島	広島県瀬戸内、尾道東、広島文教女子大学附属、世羅、修道、広島井口、三原、美鈴が丘、三次、祇園北、尾道北、広、安古市、忠海、大門、近畿大学附属東広島、廿日市、福山誠之館、呉、福山暁の星女子、崇徳、府中、広島大学附属福山、広島、沼田、英数学館、神辺旭、呉三津田、高陽、海田、賀茂、銀河学院、ノートルダム清心、比治山女子、広島国泰寺、呉港、広島観音、呉宮原、安芸南、基町、広島国際学院、山陽学園高等部、安佐北					
山形	南陽		山口	西市、長府、早鞆、田部、響、厚狭、豊北、下関商業、下関中等教育学校、梅光女学院、小野田、宇部商業、下関工業、下関短期大学付属、下関南、成進、豊浦、サビエル、新南陽、防府商業、西京、慶進、大津、熊毛南、防府、山口中央、萩、青嶺、高水、宇部、下関西、山口農業、高森、光、宇部フロンティア大学付属香川、岩国、華陵				
茨城	古河第三			徳島	阿波、城東、徳島北、海部、城ノ内、川島			
栃木	大田原			香川	高松第一、高松桜井、香川誠徳、三木、観音寺第一、坂出、高松北、高松西、三本松、丸亀、善通寺第一、香川県大手前、高松商業、香川県大手前高松			
群馬	前橋(市立)			愛媛	今治北、宇和、松山北、川之江、松山商業、松山南、松山東、松山中央、今治明徳、宇和島東、今治西、西条、三島、済美、伊予、新田青雲			
千葉	志学館高等部			高知	安芸、土佐塾、高知追手前、土佐、高知学芸			
新潟	巻、開志学園、糸魚川			福岡	門司大翔館、小倉南、小倉東、八幡南、常磐、北九州市立、福岡舞鶴、福岡、門司学園、中間、小倉商業、高稜、九州国際大学付属、京都、田川、筑紫、北筑、八幡中央、光陵、香椎、久留米、戸畑、東筑、精華女子、八幡、東鷹、東福岡、香住丘、小倉西、宗像、北九州、育徳館、青豊、輝翔館、福岡、春日、嘉穂、東筑紫学園、浮羽究真館、福岡工業大学附属城東、新宮、鞍手、九州産業大学付属九州産業、久留米信愛女学院、福岡大学附属大濠、南筑、筑紫台、福岡大学附属若葉、八女、城南、朝倉			
富山	八尾				佐賀	鹿島、小城、致遠館、伊万里、白石、唐津東、佐賀北、唐津西		
石川	輪島、野々市明倫、七尾				長崎	大村、諫早、長崎南、海星、長崎北、長崎西、口加、猶興館、西陵、長崎南山、長崎北陽台、上五島、佐世保西、佐世保南、五島、佐世保北、長崎東、島原		
福井	三国、羽水、敦賀、高志、仁愛女子				熊本	熊本西、東稜、八代南、熊本北、第二、第一、大津、宇土、鹿本、文徳、八代		
長野	篠ノ井				大分	別府羽室台、竹田、中津北、大分豊府、大分西、佐伯鶴城、大分舞鶴、三重総合、日田、大分雄城台、宇佐、臼杵、別府鶴見丘、爽風館、大分鶴崎、杵築、森		
岐阜	飛騨高山、岐阜東、大垣日本大学、帝京大学可見、高山西、美濃加茂、岐阜女子、可見、中津					宮崎	宮崎第一、小林、日向、宮崎北、高鍋、宮崎日本大学、鵬翔、宮崎西、宮崎南	
静岡	沼津西、静岡城北、三島北、袋井、下田、清水東、浜松南						鹿児島	大島北、錦江湾、大島、鹿児島女子、鹿児島、種子島、樟南、川内、鹿児島中央、鹿児島第一、出水、加世田、武岡台、開陽、甲南、鹿屋、加治木、志布志、池田学園池田
愛知	豊田北、愛知啓成、西尾東、一宮興道、津島、幸田、春日井南、岡崎西、半田東、豊田東、大府							
三重	宇治山田、鈴鹿、津東、三重							
滋賀	彦根東、長浜北、光泉							
京都	加悦谷、京都成章、大谷、鳥羽、京都八幡、東山、山城、洛北、菟道、宮津、洛南、福知山、西舞鶴、乙訓							
大阪	狭山、城南学園、履正社、近畿大学附属、関西大倉、茨木、開明、東海大学付属仰星、金岡、常翔学園、大阪青凌、関西大学第一、関西大学北陽、岸和田							
兵庫	太子、姫路商業、八鹿、近畿大学附属豊岡、姫路、山崎、芦屋(県立)、姫路南、三田祥雲館、西脇、西宮(市立)、兵庫県立大学附属、相生、川西緑台、明石南、西宮(県立)、姫路飾西、生野、豊岡、北須磨、加古川西、出石、兵庫県播磨、雲雀丘学園、三木、三田学園、神戸学院大学附属、仁川学院、報徳学園、川西北陵、姫路西、姫路東、佐用、神戸商業、鳴尾							
奈良	西大和学園、奈良育英、智辯学園、帝塚山							
和歌山	日高、近畿大学附属和歌山、向陽、開智、和歌山信愛女子短期大学附属、近畿大学附属新宮							
鳥取	米子西、鳥取東、米子東、倉吉東、鳥取西、倉吉西							
島根	江津、大東、松江商業、三刀屋、平田、大社、出雲北陵、大田、益田、出雲、松江南、浜田、松江北、松江東、安来							
岡山	井原、岡山大安寺、瀬戸、玉野光南、岡山理科大学附属、岡山芳泉、倉敷南、倉敷古城池、岡山操山、岡山一宮、津山、総社南、倉敷青陵、玉島(県立)、西大寺、関西、笠岡、岡山城東、岡山学芸館、倉敷天城、玉野、新見							

公共マネジメント学科の新入生合宿が行われました

公共マネジメント学科1年生(56人)は、4月8日(日)から1泊2日の新入生研修を受けました。8日午前9時、大学の体育館に集合して、自己紹介などの後、大型バス2台に分乗して、市内の名所を經由しながら「下関市立青年の家」に向かいました。昨年は5月に実施されましたが、今年は入学式直後の実施となりました。今回の研修には2年生(第1期生)13人も参加して、オリエンテーションの一部を自主的な企画で取り仕切るなど、随所に頼もしい先輩ぶりを発揮していました。また、コンセンサス研修では「一般廃棄物処理施設の建て替え案の検討」というテーマでロールプレイを演じ、夜は全体交流会で親交を深めました。翌朝、朝の集いや清掃後、大学に戻り、教職員と学生が一体となった研修を無事に終えることができました。



公共マネジメント学科2年 高松 彩

私たち2年生は昨年自分たちが参加した合宿を踏まえながら、1年生に早く仲間作りをしてもらうことを目的に合宿の企画を行いました。始めは上手くいくか心配でしたが、しっかりと反応を返してくれる1年生にとっても救われました。彼らのおかげで私たちもリーダーとして引張っていく事ができ、とても良い経験の場となりました。



また、各班で行なった討論でも盛んに意見を交わし合うことができましたようですし、1年生の良い仲間作りの場になりました。来年の合宿も学生が主体となって、様々な経験のできる場になればと思います。

留学生歓迎会を開催して

国際交流会ともだち 部長 国際商学科3年 和泉憲明

4月20日(金)、新入留学生のために歓迎会を開催しました。本学学生を始め、先輩留学生や、彼らのチューター、本学教職員、学外の留学生を支援して下さっている方々が大勢参加して下さいました。歓迎会は、萩野学長の挨拶ではじまり、留学生と中国から一年間来られている特任教員の皆さんから一言ずつ挨拶がありました。そして、国際交流会ともだち企画のゲームで大いに盛り上がり、新入留学生との距離をぐんと縮めることがで



きました。よさこいダンスサークル「震」による演舞もあり、賑やかでとても楽しい歓迎会となりました。

本学で修学する留学生の皆さんには、不安や辛いこともたくさんあると思いますが、私たち国際交流会ともだちは、勉強サポートはもちろん、良い思い出を創るお手伝いをしていきます。また、私達自身も留学生サポートを通して国際意識を高めています。

酒蔵見学をしてきました!!

6月2日(土)、留学生24名を含む学生26名と職員などの総勢33名が下関酒造株式会社で酒蔵見学や利き酒などの文化体験をしました。

まず、内田忠臣社長から下関酒造の歴史や酒造りに使われる水、おいしい料理とお酒の関係等についての説明を受け、太田哲也社氏から奇跡をもたらす酒造りの神さまの話聞き、お酒にまつわる様々なお話に留学生達も興味津々でした。また、塚野清太名誉社氏による、かつて酒を仕込む際に歌われていた酒造り唄の披露には、大きな声にびっくりしながらも聴き入りました。

4種類の日本酒の利き酒コンテストでは、参加した留学生達が色、香り、味を慎重に吟味し、5人の全問正解者があり、下関酒造株式会社から賞品をいただきました。

日本文化に関心を持ってもらうために5年前にはじめた酒蔵見学ですが、今年も参加者全員がはじめての体験に楽しいひと時を過ごすことができました。

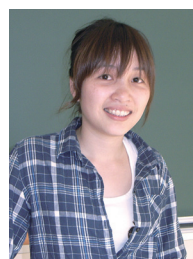


日本酒の利き酒をする留学生

「日本にいながら世界を知ろう!!」開催について



レイトウイリンさん



チャンティキム オアンさん

本学では、様々な国や海外文化を知ってもらうイベントとして毎年6回「日本にいながら世界を知ろう!!」を開催しています。今年度は5月30日(水)に、第1

回を開催し、40名の参加がありました。

第1部の「ベトナムってどんな国?」は、今年度初めてベトナムから本学に入学した留学生2名による、ベトナムの紹介でした。彼女たちの住んでいる国や地域、また教育制度や学生生活の違いなどを通して、異国を知ることができました。

第2部の「ボランティアしてきました!!」では、ベトナムとケニアの児童養護施設でボランティア活動をした学生による体験発表がありました。子どもたちの生活や勉強のサポートを通して体験したことを、写真を活用して紹介してもらいました。

イベント終了後に行われた茶話会では、ベトナム式コーヒーやケニアの紅茶を飲みながらのフリートークに、異文化交流の花が咲きました。

7月は「オーストラリア」を予定しています。また秋学期も興味深いテーマを予定していますので、皆様のご参加をお待ちしています。

■平成24年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額	
収 入	運 営 費 交 付 金	171
	授 業 料 等	1,059
	入 学 金	124
	入 学 検 定 料 等	58
	事 業 収 入 等	33
	寄 付 金	3
	受 託 事 業	7
	目 的 積 立 金 取 崩 額	139
	計	1,594
支 出	一 般 管 理 費	369
	人 件 費	985
	教 育 経 費	151
	研 究 経 費	47
	教 育 支 援 経 費 (図 書 館)	40
	受 託 事 業 費	2
計	1,594	

■行事記録 (平成24年3月～6月)

- 3月5日 一般選抜(前期日程) 合格発表
- 8日 一般選抜入試(中期日程)
- 10日 大学院選抜入試(2次)
- 21日 一般選抜(中期日程)・大学院(2次) 合格発表
- 25日 卒業式
- 4月5日 プレイズメントテスト、在学生・新入留学生オリエンテーション
- 6日 入学式
- 7日 新入留学生・留学生チューター市内見学
- 8日 公共マネジメント新入生合宿(～9日)
- 9日 新入生オリエンテーション(～10日)
- 11日 春学期授業開始、履修登録開始
- 20日 留学生歓迎会
- 5月26日 50周年記念事業(～27日)
- 6月1日 開学記念日
- 2日 下関酒造見学
- 3日 下関未来大学開講式
- 7日 ハラスメント講習会(学生対象)
- 14日 ハラスメント研修会(教職員対象)
- 23日 英語弁論大会

■行事予定 (平成24年7月～平成25年3月)

- 7月14日 50周年記念事業
- 21日 オープンキャンパス
- 8月1日 春学期定期試験(～10日)
- 5日 オープンキャンパス
- 9月3日 大学コンソーシアム関門共同授業(～7日)
- 15日 大学院選抜入試(1次)
- 20日 防災訓練
- 21日 大学院選抜(1次) 合格発表
- 秋学期授業開始、履修登録開始
- 29日 オープンキャンパス
- 30日 春学期卒業式
- 10月5日 大学祭(～7日)
- 11月17日 推薦・特別(帰国子女、社会人)・編入学選抜入試
- 26日 推薦・特別(帰国子女、社会人)・編入学合格発表
- 12月8日 5大学共同公開講座
- 15日 特別(中国引揚者等子女)・外国人留学生選抜入試
- 25日 冬季休業(～1月6日)
- 1月19日 大学入試センター試験(～20日)
- 25日 留学生送別会
- 特別(中国引揚者等子女)・外国人留学生合格発表
- 29日 秋学期定期試験(～2月7日)
- 2月25日 一般選抜入試(前期日程)
- 3月6日 一般選抜(前期日程) 合格発表
- 8日 一般選抜入試(中期日程)
- 16日 大学院選抜入試(2次)
- 21日 一般選抜(中期日程)・大学院(2次) 合格発表
- 25日 卒業式

見ちゃろ、知っちゃろ、下関市立大学

下関市立大学
オープンキャンパス 20127/21
土8/5
日9/29
土

10:00～(受付 9:30～)

オリジナルグッズと無料ランチをご用意しています。

【全体説明】

- 大学概要：本学の特色などを紹介します。
- 入試説明：入試の概要を説明します。
- 就職状況：就職状況やサポート体制を解説します。

【模擬講義】

本学の教員が、高校生の皆さんに分かりやすく日頃の授業を講義します。

【個別相談】

個別ブースでは、入試や大学生活、就職など、あなたのいろいろな疑問に分かりやすく答えします。

【大学語学体験】

海外の研修先の紹介や初歩的な会話レッスンなどを行います。

【市大生と語ろう】

大学の授業やサークル活動、普段の生活スタイルのことなど、在学生の生の声が聞けます。

【学内施設ツアー】

在学生とおしゃべりをしながら、学内を散策しましょう。

【学生食堂(無料ランチ)】

学生食堂で普段学生が食べている、人気メニューが味わえます。

【図書館ツアー】

日頃は目にする事のない閉架書庫にもご案内します。

無料送迎バス運行(7、8月のみ)

最寄駅(JR幡生駅・新下関駅)に専用バスがお出迎えます。

- ・JR幡生(はたぶ)駅 <9:15> <9:45> ※大学まで徒歩20分
- ・JR新下関駅(東口) <9:15> <9:45>

※9月29日はプログラムの内容が少し異なります。詳細はHPをご覧ください。

下関市立大学50周年記念事業のお知らせ

平成24年7月14日(土)午後より
特別記念シンポジウム
「英国と下関」

※詳細は本学ホームページをご覧ください。